

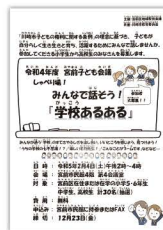
宮前区地域教育会議の活動紹介

子ども会議

2年以上コロナ禍で開催できていない子ども部会主催の子ども会議ですが、2023年2月4日(土)に開催予定でした。しかし、今年度も残念ながらリアル開催を断念することとなりました。

開催目前での中止でしたのでこのまま終わりにするのではなく、今年度は子ども会議のテーマ「みんなで話そう! 学校あるある」を各学校に持ち帰っていただき、学校ごとに子ども達に話し合ってもらい、それをまとめてぜひ皆様にお伝えできたらと考えずしております。

子ども達がリアルで会って話せる場をこれからも模索して参ります。



教育を語るつどい

研究部会主催の教育を語るつどい「川崎市の防災教育について」が2023年3月5日に開催予定です(編集2月現在)。

それに先立ち、研究部会員の勉強会が2022年10月12日に開催されました。身近で実践的な防災対策を川崎市の経験をまじえて、川崎市危機管理本部危機管理部部長の大村氏に講義いただきました。大村氏は3月5日の教育を語るつどいにおいても講師としてお招きしています。



川崎市危機管理本部
危機管理部部長
大村様

地域教育会議とは?

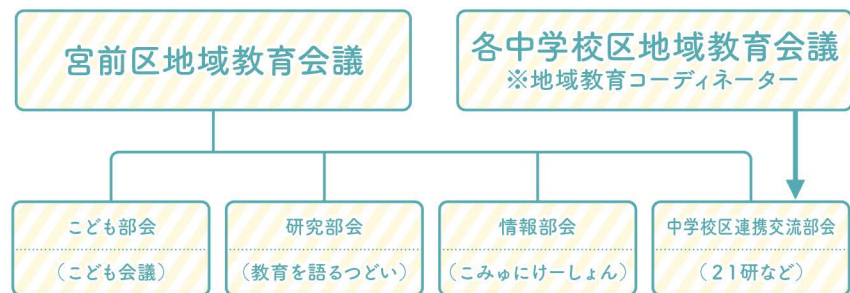
地域教育会議のめざすもの
「子どもがいきいき育つまち、おとなも楽しく学べるまち」

行政区地域教育会議

行政区における子どもの豊かな成長の支援や生涯学習の推進を行う組織として、行政と地域の連携を進めながら、広く地域における教育活動を行っています。また、中学校区地域教育会議の支援と補完を行っています。

委員構成

次のような子どもに関わる機関・団体と住民委員が緩やかなネットワークを活かして活動します。



つぶやき

情報部会員 舟田(宮前図書館長)

今から約20年前、とある市民館振興係勤務の際に、地域教育会議を担当しました。まだ、事務局体制がしっかりとしていない中で、私自身が企画立案や会計・広報活動なども行っていたことを思い出しました。

市民の主体的な活動に対し、担当者を通して市民館と相互の情報共有し、より素晴らしい活動ができるよう見守りながら、住み慣れた地域の中で多世代が交流し、地域の教育環境を社会教育の視点で考えていくことが望ましいと考えています。

宮前区地域教育会議の先進的活動については、当時から存じ上げていましたが、今回、情報部会員として関わることができ、市民の主体的な活動を目の当たりにし、また一緒に活動へ参加することができたことは、とてもうれしく、本当に素晴らしい活動をなさっていると感じました。

編集後記

今年度は、3年ぶりに町内会・自治会への回覧も再開され、地域住民の方々などにも広く地域教育会議の活動をお知らせする情報紙「こみゆにけーしょん」62号を、コロナの影響が色濃く残り各種企画が縮小する中で、何とか年度内に発行することができました!!

取材にご協力頂いた皆様に深く感謝申し上げます。

宮前区地域教育会議 情報部会
當間・福田・佐藤・舟田・倉賀野・花田・石堂(担当役員)

こみゆにけーしょん

宮前区地域教育会議



号数 62号
発行日 2023(令和5年) 3月発行
宮前区地域教育会議 議長 篠澤 惺子
事務局 宮前区宮前平2-20-4(宮前市民館内)
電話 044-888-3911
編集者 情報部会

議長あいさつ



宮前区地域教育会議
議長 篠澤 惺子

「コロナ禍」の活動は既に3年経過します。どの会議も、感染防止を考慮しながら開催し、昨年6月9日の「総会」にこぎつけました。

今年度もコロナ感染対策を原則とし、議長会議を4回・運営委員会を8回・役員会を10回開催し、それに伴い各部会でも多くの話し合いをもちました。コロナ感染対策でリモート会議も取り入れられました。地教の活動は、人が集まって成り立ちます。その意味でコロナは、極めて難しい状況です。令和5年度こそ…、普通の会議を開催したいと願っています。今後ともよろしくお願いいたします。

「21世紀の川崎の教育を創造する研究会(21研)」の意見交流会が開催されました



2022年21研の意見交流会が開催されました。宮前区のPTA・地域住民・教職員の代表者が参加し、「川崎市の学校に在籍する児童・生徒の居場所について」というテーマで話し合いました。この分科会は、はじめてのオンラインによる開催でしたが、各グループに分かれて活発な意見の交流が行われました。交流を通して、子どもたちの居場所づくりや、保護者・地域・教職員のつながり、公共施設やフリースクールを詳しく知り活用していくことについて、改めてその大切さを感じる時間となりました。

21研に参加して

コロナ禍となって以来、3年ぶりの開催となった21研。20分科会はオンラインとなりましたが、「子どもたちの居場所」をメインテーマに教職員・PTA・地域住民が活発に意見交換をし、そこには新たな発見や情報があり、立場は違えど「子どもたちへの想い」は同じであるということを再認識できました。また、「議論する」ということの大切さ、素晴らしさも改めて感じられ、素晴らしい時間を過ごすことができました。

宮前区地域教育会議 副議長 宮本 太一

コロナ禍で中止となっていた21研の第20分科会が、10月12日に3年ぶりに開催されました。今回は全市統一のテーマ「川崎市の学校に在籍する児童・生徒の居場所について」を討議いたしました。参加者は保護者・地域住民・教職員の皆様でした。地域教育会議中学校区連携交流部会では、委員を通じ各中学校区の皆様に参加して頂くよう呼びかけを行いました。

討議はオンラインで実施されましたが、参加された皆様の熱い思いが結実した充実した内容でした。参加者の皆様にはYouTube上で、川崎市内で子ども達の為に活動されているお二人の発言をまとめたビデオを事前に見て頂きました。討議すべき内容を熟考された上で討議に臨まれたことも、白熱した議論の一因ではなかったかと考えております。

宮前区地域教育会議 中学校区連携交流部会 部長 遠藤 養子

地域教育コーディネーターへのインタビュー!!

国は、地域学校協働本部政策の一環として、地域と学校が双方向で「連携・協働」していく活動の充実に向け、その担い手である地域教育コーディネーターの設置を推進しています。

今回ご紹介する菅生中学校区は、宮前区8中学校区において、令和3年にいち早くコーディネーターが設置されました。また、宮前平中学校区は今年度、8名ものコーディネーターが選出されました。

そんな2中学校区に取材を快諾していただきましたのでご紹介いたします。



菅生中学校区



地域教育コーディネーター 山田様・川西様・生駒様

現在の菅生中学校区地域教育コーディネーターの動きとしては、これから積極的に活動していくためのスタートを切り、さらに何をすべきかを模索している状況とのことです。

始動して1年経過しましたが、まだまだ手探りの状況でコーディネーターとして具体的に「これがそうです」というような明確な動きはまだ見えていない様子。しかし、すでに菅生中学校区地域教育会議は各部会の横のつながりも議長はじめよく認識されていることがわかり、川崎市における地域教育会議の理念について理解し、具現化していることを改めて確認できました。

地域教育コーディネーターとして、先ず取り組んだことは、中学校区にある子ども会の活動の様子を各自治会の方に集まっていたいただき、状況をお聞きしたとのことです。併せて学校教育推進会議の方が

参加する場面もあったそうです。地域教育会議のメンバーでもあり寺子屋事業のコーディネーターをしているといったように、子どもの状況も様々な場面から見ている人がメンバーにすることがうかがえます。

「地域と学校の橋渡し」というところが見えず、橋渡しとは何だろうということを模索しているように感じました。

子どもを見守る様々な活動をしているメンバー

このメンバーの方は様々な地域活動を通してこの地域の子どもの様子を見つめています。子ども食堂の活動、寺子屋、中学校区地域教育会議議長...さまざまな活動をバックボーンに持ち、地域を見つめ、どうしたら地域が子どもにとって居心地の良い居場所になるのかを考えているのが伺えました。

地域教育コーディネーターを決める際に

コーディネーターを募りたいと思っていましたが、最終的にコーディネーターを決めるには地域教育会議の中で情報共有し、諮った上で決めるようにしたとのことです。場合によっては教育委員会の担当セクションに相談し、運営委員会に来てもらい、委員の皆さんの承認を得るプロセスが必要だと感じたとのことです。

地域の中で繋がる

「すがお手つなぎまつり」という地域のお祭りがあります。人と人がつながって楽しく子育てできる地域をめざして行われるイベントです。蔵敷こども文化センター、地域子育て支援センターすがお、菅生分館を会場に、模擬店や無料で遊べる場、ステージでは楽器の演奏やダンスなどを通して人がつながっています。実行委員を中心にこのお祭りでも世代がつながり、自治会や近隣商店会の協力も得て、地域の中の子どもに関連する施設や団体にも広がっていることに驚きました。

「子どもたちにとって居心地の良い地域を目指して、地域と学校が協働で活動しています。」

「大人は生き生きしているか、子どもにメッセージを伝えているか、学校と共に考えようと思いました。この時の取組みが現在の活動を支えているのです。」

「菅生分館だより」掲載記事より

この地域教育会議は、菅生の地域の中でこのメッセージを具現化していると改めて感じ、引き続き新たな地域教育コーディネーターという役割を担いながら、地域の主体的な活動を継続し、発展させていく姿勢を強く感じました。

宮前平中学校区

地域教育コーディネーターの設置について

コロナ禍において、地域教育会議の役員を中心に何度もオンライン会議を重ね、学校をよく知る学校教育推進会議のメンバーがコーディネーターになることが学校とのスムーズな連携につながると考えました。

中学校区に住まいがある8人が候補となりました。8人全員が小学校、中学校でPTA役員を経験され学校へ関わった経験も多く、それぞれに学校と地域をよく理解している方々です。

地教教育コーディネーターの決定までには前任の鈴木校長と現渡邊校長とのコミュニケーションが不可欠であり、学校の思いや要望にも常に耳を傾けてきました。加えて、川崎市教育委員会生涯学習部地域教育推進課の西入指導主事、佐藤指導主事には、専門的な立場から適切な助言を頂きました。

当初の話し合いでは、今までと同様の活動に対して謝金が出ることで、逆にコーディネーターの重荷になること等、これまでと違う立場に戸惑う意見が多く、公募制等の意見もありました。しかしながら、地域をよく知る人を選出するという観点から2021年度の地域教育会議総会で、役員の現メンバーを校長先生が推薦するという形を了承していただき、活動がスタートしました。



地域教育コーディネーター 金田様

コーディネーターとしての活動

事務局は5校で2年ごとに担当しています。近年新型コロナウイルス感染症の影響からオンラインを実施することが多くありました。会議をスムーズに実現させるための設備やシステムの構築などもIT関係にお勤めの委員の方に設置していただくなど地域の人材が豊富な点が特徴としてあげられます。また、「地域安全マップの作成」などの行事については、常にコーディネーター間での情報共有を密にして、主催に関しては、全て地域教育会議側から提案する形をとっています。

コーディネーターとして大切なこと

コーディネーター自らが楽しみながら様々な活動に取り組むことで行事の成功につながっていくことや日頃からアンテナを高めて面白いことや興味のあることを積極的に取り入れることが会議の活性化につながると考えています。このコロナ禍で学校と地域教育会議の接点が少なく、顔の見えない関係になってしまった気がしています。まずはオンライン顔合わせを実施し、これを機に各学校とのつながりがスタートしました。以来、それぞれの校長先生から様々な連絡が入るようになりました。地域教育コーディネーターは、小中学校時代に全員がPTA役員を経験しています。自分たちの子どもがそうであったように、今いる地域の子どもたちが健やかに育つために何ができるのかを考えていけるような会議でありたいと思います。

地域教育推進課 指導主事よりコメントをいただきました!

川崎市には、地域と学校が連携・協働して子どもの豊かな成長を支える「地域教育会議」が中学校区と行政区に設置されています。現在、中学校区地域教育会議では、国が設置を求める「地域学校協働本部」の役割を兼ねる形で整備を進めており、その1つとして、地域の方に「地域教育コーディネーター」を担っていただくことで、地域と学校の橋渡し役などの活躍が期待されています。

各中学校区によって、地域の特色や地域教育会議の運営の仕方などが異なりますので、地域教育コーディネーターの選出について、ご心配、ご不明な点がございましたら、地域教育推進課にご連絡ください。地域教育会議や学校の皆様の声を伺いながら、一緒に考えていきたいと思っております。よろしく願いたします。

川崎市教育委員会 生涯学習部地域教育推進課 西入指導主事



川崎市地域教育会議 全市交流会の様子(2023年1月)